

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 13 日現在

機関番号：43804

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20700480

研究課題名 (和文) 適応の観点からみた野外教育プログラムにおける「自然」の意味

研究課題名 (英文) A meaning of "shizen" in the outdoor education from the viewpoint of adaptation

研究代表者

遠藤 知里 (ENDO CHISATO)

研究者番号：90400744

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 (身体教育学)

キーワード：野外教育

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、野外教育プログラムの参加者が自然環境に対する身体的・心理的順応を経て適応に至るプロセスと、その経験がその後の生き方態度や価値観に与える影響を発達段階に応じて検討し、自然環境を活用した野外教育プログラムの教育的価値を明示することである。研究課題として、野外教育プログラムにおける 1) 自然環境への適応過程の検討、2) 仲間集団への適応過程の検討、3) 適応経験の再構成過程の検討、の 3 点を設定し、野外教育プログラムにおける実践研究を通して上述の研究目的を達成する。

2. 研究の進捗状況

試行プログラムおよび予備調査が終了した。今年度は、幼児期と青年期を対象としたプログラムにおいて研究を実施する。

3. 現在までの達成度

当初の計画どおり進展しておらず、約 1 年の遅れがある。

(理由)

当初の研究計画では、野外教育指導者に対するインタビュー調査を研究計画に含めていた。しかし、研究代表者の所属機関の異動があり、当該研究に従事する時間が大幅減となったため、インタビュー調査を中心とした部分の遂行が困難となった。具体的には、インタビュー調査を実施する予定であった 2 年目より進捗の遅れが発生した。

4. 今後の研究の推進方策

上述の理由により、研究計画を修正した。具体的には、インタビュー調査の分析による仮説生成を行わずに、試行プログラムの実施を通して仮説生成を行う方法に変更した。予定より 1 年遅れたが、3 年目 (2010 年度) において実践研究の準備が整ったため、最終年度

(2011 年度) でデータ収集・分析および報告を行うことが可能となった。現在、幼児期と青年期についての研究課題が残っているため、今年度 9 月および 11 月にプログラムを実施するための準備を進めている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕 (計 1 件)

遠藤知里 (2010) : 幼稚園における夏季宿泊保育の意義; 領域「環境」・「健康」との関連からの考察. 常葉学園短期大学紀要, 第 41 号, 121-127.

〔学会発表〕 (計 3 件)

遠藤知里, 杉山絵美, 太田正義 (2009) : 長期キャンプ参加者と指導者の内的成長について考える (1). 第 13 回日本キャンプ会議, 平成 21 年 5 月 23 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京).

遠藤知里, 櫻井良樹, 太田正義 (2009) : 長期キャンプ参加者と指導者の内的成長について考える (2). 第 12 回日本野外教育学会, 平成 21 年 7 月 4 日, 北海道教育大学釧路校 (北海道).

遠藤知里・針ヶ谷雅子・太田正義 (2010) : キャンパーの志向によるキャンプの効果の表れ方の違い～つながり志向性・自然体験効果・感性の関係からの考察. 第 14 回日本キャンプ会議, 平成 22 年 5 月 22 日, 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京).

〔図書〕 (計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

特になし